

フォーミュラ・ニッポン第5戦 RACE Report 2009/07/12 鈴鹿サーキット  
決勝レース

● ロイックが2連勝、小暮も2位に入り今季初の1-2フィニッシュ

午後2時30分、第5戦決勝レースがスタート。スタートダッシュを決めたのは、予選2位の小暮。ポールのロイックは小暮に続き2番手で1コーナーを通過した。2台は3位以下を1周につき1秒近く突き放しながら周回を重ねていき、5周目にはロイックがその時点でのファステストラップを記録。しかし5周を過ぎたあたりからロイックが少しずつ小暮に離されていき、レース中盤には約9秒の差が開いていた。23周を終え、先にピットストップに入ってきたのはロイック。チームはスムーズなピット作業を行い暫定5位でロイックをコースへ戻した。続いて25周を終えて小暮がピットイン。こちらもロイックと全く同じタイムで作業をすませ、小暮はトップのままコースに復帰した。その後、全車がピット作業を終えると再び小暮、ロイックの順で1-2体制に。ところが33周目、シフトが4速に固定されてしまうアクシデントが発生した小暮が大きくペースダウン。それまで築いていた10秒以上のギャップがみるみる削られていき、34周目にはついに順位交代、ロイックがトップに立つ。小暮のマシンの症状はレース残り数週の時点で復旧し、40周目にはロイックのファステストラップを塗り替える走りでの追い上げにかかったが、時すでに遅し。ロイックが2戦連続でポールポジションからの優勝を飾った。2位には小暮が入り、チームも今季初の1-2フィニッシュとなった。ロイックは今季3勝目でポイントランキングトップに。小暮も今季2度目の表彰台獲得でランキング3位に浮上した。

● 中嶋悟総監督

「ようやく1-2フィニッシュを飾ることができました。これまでも何度かできそうな気配はありましたが、なかなか上手くいかないものです。今日も完璧とは言えないレースではありました。小暮のトラブルも、復旧してくれて本当に良かった。スタートもレース内容も、本当に素晴らしかったのに、トラブルが出たりして素直に終わらせてくれないのがレースなんだなあと感じました」

● ロイック・デュバル 優勝/1:17' 25.650/43周

「少しハードなレースだった。まず自分のスタートにはとてもがっかりしたね。僕のクルマは5周目ぐらいからオーバーステアがきつくなってきて、とても大変だった。2セット目のタイヤは内圧の調整をしてもらったので、クルマのバランスが非常に良くなっ

PIAA

EPSON

ZOJIRUSHI

ZURICH

HONDA

S&F

D

BRIDGESTONE

NGK

BBS

GR2

PERFORMANCE

Am

---

たよ。小暮サンがトラブルでペースダウンしたときに僕が抜いてトップに立ち、そのあとは 100 パーセントのプッシュをしつつも、無理はしないで走った。そうすればトップでゴールできる自信はあったからね」

●小暮卓史 2位/1:17' 36.689/43周

「途中でギアが4速に固定してしまって、『オレのレースもこれで終わったな』と思いました。でもチームが無線で『最後まであきらめるな』と言ってくれて、なんとかタイムを下げない走り方を探りながら走っていたら、突然ギアがまた復活してくれて、最後は2位で終われました。今回は優勝を狙える車だったので、2位という状況はとても悔しいです。もっともっと自分の理想にクルマの状態を近づけていって、次は勝てるように頑張ります」